アジア・太平洋地域の障害者の暮らしと災害対策

～誰一人取り残さないために～

<神奈川工科大学 60 周年記念国際シンポジウム パラレル・イベント>

国際機関と共にインクルーシブ防災を考える セミナー 報告書

<公開セミナー （第 2 日目）> zoom webinar

日時: 2023 年 8 月 24 日(木） 午後 2 時～4 時 日本時間

主催: 神奈川工科大学 地域連携災害ケア研究センター
地域連携・貢献センター
共催: 神奈川工科大学 研究推進機構
国際センター

International Seminar on Disability-inclusive Disaster in Asia and Pacific
～Acting on the slogan "Leave no one behind" (SDGs)～

■Organizer:

Research Center for Regional Cooperation and Disaster Care, KAIT
Center for Regional Cooperation and Contribution, KAIT

■Co-organizer:

Promoting Organization of Research, KAIT
International Center, KAIT

■Date and Time:

August 24, 2023 (Thursday) 2:00pm～4:00pm (Japan Standard Time)

神奈川工科大学 地域連携災害ケア研究センター 地域連携・貢献センター

< 協力団体 >

JICA (Japan International Cooperation Agency)
国際協力機構

JSRPD (Japanese Society for Rehabilitation of Persons with Disabilities)
日本障害者リハビリテーション協会

APCD (Asia-Pacific Development Center on Disability)
アジア太平洋障害者センター

Disabled Peoples' International - Japan
障害者インターナショナル日本会議

Duskin AINOWA Foundation
ダスキン愛の輪基金

CityNet – Plus Arts Center for Creative Partnerships
シティネット-プラス・アーツ クリエイティブ・サポートセンター

DP Hanoi (Hanoi Association of People with Disabilities)
ハノイ障害者協会

< 協賛団体 >

Soroptimist International of Atsugi
国際ソロプチミスト厚木

SOMPO Japan
損保ジャパン神奈川支店厚木支社

< 協力通訳者 >

			<Information support>
日英逐次通訳	**長縄　美樹**	**氏**	English-Japanese interpretation: Miki Naganawa
日本手話通訳	**原　　恵美**	**氏**	Sign language interpretation: Emi Hara
日本手話通訳	**宮原麻衣子**	**氏**	Sign language interpretation: Maiko Miyahara

まえがき

神奈川工科大学では、アクセシブルキャンパスを目指すと共に、地域と連携して防災対策を進めています。今回、2 日間の国際イベントを企画し、第 1 日目に「国際交流”障害と防災”草の根ミーティング」と題して、アジア各国の障害ある方々との草の根ミーティングを開催しました。10 か国 82 名の参加登録を得て、各地の状況、取り組み、防災への思いなどを語り合いました。第 2 日目は、「国際機関と共にインクルーシブ防災を考えるセミナー」を開催し、15 か国 109 名の参加登録を得て、アジアの障害者をめぐる防災対策、東日本大震災での経験について 3 件の報告とパネルディスカッションを行いました。

アジアにおける自然災害の増大に伴い、障害者が取り残されがちである現実を踏まえて、今後は課題解決に向けた実践が重要であること、それには当事者を中心に関係者が協働することが前提であるということを再確認しました。

主な内容を、2 冊の報告書に分けて掲載しておりますので、お読みいただければ幸いです。

2023 年 10 月 1 日

神奈川工科大学　地域連携・貢献センター長
地域連携災害ケア研究センター幹事
小川　喜道

Introduction

Kanagawa Institute of Technology aims to become an accessible campus and is working with the local community to promote disaster prevention measures. This time, we planned a two-day international event, and on the first day we held a grassroots meeting with people with disabilities from Asian countries entitled "International Exchange: Disability and Disaster Prevention" Grassroots Meeting. 82 people from 10 countries registered to participate, and we discussed the situation in each region, initiatives, and thoughts on disaster prevention. On the second day, we held “Seminar to consider inclusive disaster prevention together with international organizations”, with 109 participants from 15 countries registering, and we held three seminars on disaster prevention measures for people with disabilities in Asia and the experience of the Great East Japan Earthquake. A report and panel discussion were held.

In light of the fact that people with disabilities tend to be left behind as the number of natural disasters increases in Asia, we believe that it is important to implement measures to resolve issues in the future, and that this requires cooperation among all concerned parties, including those affected.

The main contents are divided into two reports, so we hope you will read them.

October 1, 2023

Yoshimichi Ogawa, Director of Center for Regional Cooperation and Contribution, KAIT

国際セミナー報告書　目次

○　開会挨拶
○　セミナーの概要
○　報告のパワーポイント　（別サイトからダウンロードしてください）
・ASEAN 地域におけるインクルーシブ防災の展開
アジア太平洋障害者センター 人材開発プログラムマネジャー ソムチャイ・ランシップ
・フィリピン・イロイロ市における包括的防災対策の計画・実践
シティネット・プラスアーツ事務所　事務局長　平田ケンドラ
・東日本大震災の経験から～誰も取り残されないインクルーシブ防災～
障害者インターナショナル（DPI）　日本会議 事務局次長　今村登
○　セミナーの Web アンケート回答結果
○　参考サイト

< Contents of the Report>

○　Opening remarks
○　Seminar overview
○　PowerPoint of 3 reports
"Disability-inclusive Disaster Risk Reduction in ASEAN Region"
Somchai Rungsilp (Community Development Manager, Asia-Pacific Development Center on Disability)
"Activities for Disaster Prevention Support with Persons with Disabilities at Iloilo City, Philippines"
Kendra Hirata (Executive Director, CityNet – Plus Arts Center for Creative Partnerships)
"From the experience of the Great East Japan Earthquake"
Noboru Imamura (Deputy-chief Secretariat, Japan National Assembly of Disabled Peoples' International)
○　Web questionnaire response results
○　Reference sites

セミナー開会の挨拶

神奈川工科大学　地域連携災害ケア研究センター
センター長/教授　山家 敏彦

皆さん、本日は「障害と防災に関する国際セミナー」にご参加いただきまして、たいへんありがとうございます。

神奈川工科大学は、今年、創設 60 周年にあたり、さまざまなイベントが行われる予定となっております。本セミナーは、そのスタートにあたるものです。

当大学は、創設にあたり、教育と研究の二つの柱と共に、「地域貢献」を柱に挙げております。研究のプロセスは後進の育成に重要であり、研究成果は、地域住民を中心に世界へと発信し社会貢献を果たさなければなりません。

近年、全世界において異常気象による甚大な自然災害が頻繁におきており、日本だけでなく多くの国々と災害対策の情報交換を必要としています。特に障害や疾病のある方々への対応は、重要な取り組み課題と考えております。

私自身は、臨床工学を通して、平時の時も災害時の時も、緊急時に病院との対話が誰でも簡単にできるツールを開発し、普及に努めております。また、災害時における透析医療(dialysis medicine)の継続を支援する日本災害時透析医療協働支援チーム JHAT の代表として活動をしております。(Japan Hemodialysis Assistance Team in Disaster: JHAT)

さて、本日は、日本を含めアジア地域における防災の実践と提言を 3 名の方からお話いただきます。そして、パネリストとしてさらに３名の経験豊かな方を加えて議論することになっております。「障害と防災」について、本日ご参加の皆様にとって有意義なセミナーとなることを期待しております。

それでは、最後まで視聴していただければ幸いです。
ありがとうございました。

Opening remarks

Kanagawa Institute of Technology
Research Center for Regional Cooperation and Disaster Care
Center Director / Professor Toshihiko Yamaka

Thank you very much everyone for participating in the "International Seminar on Disability and Disaster Prevention", today.

Kanagawa Institute of Technology is celebrating its 60th anniversary this year, and various events are scheduled to be held. This seminar is the start of that process.

When our university was founded, we established two pillars: education and research, as well as “contribution to the local community." The research process is important for nurturing the next generation, and research results must be disseminated to local residents and the world to contribute to society.

In recent years, serious natural disasters caused by abnormal weather have frequently occurred around the world, and it is necessary to exchange information on disaster countermeasures not only with Japan but with many other countries. We believe that responding to people with disabilities or illnesses is a particularly important issue.

Through clinical engineering, I am working to develop and disseminate tools that allow anyone to easily communicate with hospitals during emergencies, both during normal times and during disasters. In addition, I am working as a representative of the Japan Hemodialysis Assistance Team in Disaster: JHAT, which supports the continuation of dialysis medicine during disasters.

Today, we will hear from three people about their disaster prevention practices and recommendations in the Asian region, including Japan. We will also have three more experienced panelists join us for discussion. We hope that this seminar on ``Disability and Disaster Prevention" will be a meaningful one for everyone participating today.

I hope you will watch it until the end. Thank you very much.

国際セミナーの概要

本国際セミナー(第 2 日目)は、16 か国 109 人、その内訳は海外から 38 人、日本国内から 71 人の登録申し込みがあり、高い関心が伺われました。「アジア太平洋地域の障害者の暮らしと災害対策」と銘打っておりましたので、参加国は広く分布しておりました。インドネシア、フィリピン、ミャンマー、カンボジア、バングラデシュ、インド、ネパール、パキスタン、タイ、スリランカ、台湾、ベトナム、フィジー、ブータン、キルギスタン、日本です。

初めに、「防災と障害者支援」に関する 3 件の報告が行われました。

一番目のソムチャイさんからは、東南アジアにおける障害者の包括的な防災を推進する背景、実施対象、具体的なトレーニング・プログラムを紹介していただきました。二番目のケンドラさんからは、フィリピン・イロイロ市における防災の地域基盤を作り上げる具体的な活動を紹介していただきました。そして、三番目は、今村さんより、東日本大震災の状況と、障害当事者団体の支援活動、その経験から見出した提言についてお話いただきました。

この 3 つの報告を受けて、パネルディスカッションを行います。

第一番目の報告者であるソムチャイさんからは以下のような報告がされました。

ソムチャイさんが所属する機関は、日本政府とタイ政府のコラボレーションにより設置されました。アジア太平洋地域の障害に関わるさまざまな課題に取り組んでいますが、今回は、ソムチャイさんに障害者インクルーシブ防災に焦点を当ててお話いただきました。

2020 年から 2022 年の 3 年間は、コロナ禍の真っただ中ですから、ASEAN 各国の参加を得てのプログラム展開は、とても困難の多かったと思います。プログラムのターゲットは、政府、障害者支援団体、障害者団体ですが、そこでの指針は、インクルージョン、アウェアネス、参加、実践、持続性、知識・技術の発展、にあります。国際的なツールとしては、仙台枠組み、障害者権利条約、インチョン戦略、SDGs 戦略などが挙げられます。

ソムチャイさんは、今回のプログラムを指導者養成に置き、その実践を紹介してもらいました。

今回は、コロナ禍のため、オンラインの研修が組み込まれていましたが、これからも多くの国の研修に参加してもらうには、オンライン方式と対面方式のハイブリッドな研修が継続されることになると予想されます。

今後は、研修に参加した人材をどのように活かすか、受講者の活動が試されます。さらに今後の継続的・発展的な取り組みが期待されます。

二番目の報告者、平田ケンドラさんからは、フィリピン、イロイロ市における防災活動について、次のような報告がされました。

2012 年から 2017 年にかけて 2 期に渡る取り組みの紹介と、本年 2023 年に同地域に訪問し、その後の活動状況を把握しているので、その様子を報告してくださいました。そして、プロジェクト終了後も、発展を遂げつつ継続的に実行していることが示されました。たくさんの写真を通じて活動紹介をしていただきましたが、計画段階から実施段階まで障害者が参加していることが、いきいきと示されていました。

イロイロ市の自然災害は、台風、洪水、水不足、火事、嵐、地震です。そこで、第一期には、ネットワーク構築、地図作り、避難ドリル、アクセシブルな施設、災害教育などを行い、第二期には、危機マネジメント、緊急医療サービス機関の職員研修、市の条例の起草などです。このプロジェクトの重要な指針は、弱い立場にある人たちが、プロセスに参加したいと思っており、積極的な役割を果たせることです。つまり、障害者は、会議室で座ることにとどまらず、実践的な参加を求めています。こうして障害者が主要なステークホルダーとして含められているグループこそ、重要な要素と言えます。

プロジェクトの 5 年間の活動には、延べ 13,000 人以上が参加しています。このプロジェクトが終了してから 6 年後、さらに発展していることを写真で紹介してくださいました。そして、障害者が、防災プログラムをより多様化し、包括化する上で主要な貢献者であることを明確にしています。

三番目は、今村登の報告です。

30 年前に頚髄損傷となり、車椅子を使用している今村さんから、当事者団体 DPI-Japan の活動紹介がされました。

今村さんが問題点として挙げているのは、避難所に行くことができない、避難所に行けたとしても、そこで生活することができない、場所がわからず、また、受け入れ人数が少ない、情報も物資も届かない、非常にバリアがあるのが、避難所だと述べています。

今村さんが最後に示していることは、「自然を克服するのではなく、自然と共存する」のがよい、また、「差別容認の社会から、インクルーシブな社会」になることで、「真の地域づくり」ができると述べています。

今村さんの印象に残る言葉として、「災害時は、日常の問題が顕在化する」というものでした。インクルーシブな日常があれば、災害時も乗り越えていけることが多くあるのだということを感じました。

<パネルディスカッション>

3 人のスピーカーによる報告を聞いた後、ベトナムの DP ハノイのヒューイェンさんと、日本障害者リハビリテーション協会 CBID 委員の上野悦子さんにパネラーとして参加していただきました。

ヒューイェンさんからは、報告から受けた印象とともに、スピーカーに対して質問がされました。

3 人のスピーカーに共通するのは、人の意識を変えていくことが必要である、ということでした。そして、印象深い事柄として 3 点が挙げられました。すなわち、①障害者参画による防災活動、②人材育成の重要性、③協働することの大切さ。そして、政府、NGO、障害者団体などに対して、人材育成の重要性が示されました。

また、ソムチャイさんへの質問として、研修終了者にどのような活動を期待しているか。ベトナムから参加した人たちは、研修にて配布されたハンドブックをどのように活用するか、また、ベトナム語への翻訳に対して支援してもらえるか、との質問がされました。

(ソムチャイさんからの回答)
ハンドブックを、地域の状況に合わせてカスタマイズして使用してほしい。また、各国の言葉に翻訳して、e-book としてオンライン上でダウンロードできるようにしていきたいとの回答でした。

(ケンドラさんからのコメント)

いかに、人材育成に継続性や広がりを持たせるか、ご意見をください(小川)

・自治体の職員をあまねく研修し、意義を知ってもらうことが大切です。
・住民だけでなく、政策決定に関わる地位にある人を研修することも大切です。
・市民、議員、市職員と一緒に役割分担とその内容などを議論することが必要です。
・プロジェクトの実施に際して、8 つの条例を変えて、そこにインクルージョンを入れ込みました。この条例を変えたことは大きな意義がありました。

(今村さんからのコメント)

・本部を立ち上げたのは、障害者のため、ではなく、障害者による、ものであった。
・障害者は、支援される側という前提になりがちであるが、街づくりに障害者は関与できる。
・災害時には、見えにくくなったり、聞こえにくくなったりする環境下にあり、また、避難所などの目的地に行く上で、わかりづらさがある。これらは、視覚障害、聴力障害、知的障害などと同じ状況ともいえる。
・障害のそれぞれの特性を参考にした街づくりをすれば、災害に強い街づくり、すべての人たちが暮らしやすい社会となるだろう。

そして、コメンテーターの上野さんからは次のようなお話がありました。

・インクルーシブな社会に向けた実践はコミュニティで行われる。防災も、個々の対応はコミュニティで行われる。

・地域開発に障害者がどのような役割を果たすか、がポイントである。

また、上野さんから次のような話題が提供されました。

いろいろな人が交わって、楽しいことを行うことが基本になると考えている。小平市の実践例を紹介される。「みんなで作る音楽会」を、実行委員会形式で行っている。障害の有無に関係なく、高齢者も参加している。会合の進行は、障害者がおこなっている。

これは一例で、スポーツやレクリエーションなどいろいろな場面で考えられる。ベトナムのヒューイェンさんのところでも、障害者のスポーツ活動に、障害の無い人が参加している。防災トレーニングでもこうした形式でやってみるとよい。

まずは、楽しいことをやってみませんか、と上野さんから提案がありました。

上野さんから、足元のこと、シンプルで楽しいこと、それらを暮らしの中に入れていくことが大事だと発言がありました。

最後に、山家教授から次のような感想が述べられました。

「強く感じたことをお話したい。大災害が起きている今日、先送りできることは何もないです。自助の限界、共助と関係者による協働の重要性を強く感じました。人材育成は、早急に取り組むべきことです。JHAT の代表をしているが、今、なり手が少ない状況です。

私の足元の解決策として、学生の教育が重要と考えています。そして、若い人たちへの防災教育をしていくことが求められていると認識しています。

上野さんの意見と同じですが、まずは顔の見える関係が大切と考えており、その実践をしていきたい。」

以上

(文責: 小川喜道)

International seminar overview

This international seminar (on the second day) received 109 registrations from 16 countries, including 38 from overseas and 71 from Japan, indicating a high level of interest. Since the conference was entitled "Seminar on Disability-inclusive Disaster Risk Reduction in Asia and Pacific," participating countries were widely distributed. They are Indonesia, the Philippines, Myanmar, Cambodia, Bangladesh, India, Nepal, Pakistan, Thailand, Sri Lanka, Taiwan, Vietnam, Fiji, Bhutan, Kyrgyzstan, and Japan.

First, three reports on "disaster prevention and support for people with disabilities" were presented.

The first speaker, Somchai-san, introduced the background, targets, and specific training programs for promoting comprehensive disaster prevention for people with disabilities in Southeast Asia. The second speaker, Kendra-san, introduced specific activities to build a local foundation for disaster prevention in Iloilo City, Philippines. Thirdly, Imamura-san talked about the situation of the Great East Japan Earthquake, the support activities of organizations by people with disabilities, and the recommendations he made from his experiences.
After receiving these three reports, a panel discussion was held.

The first reporter, Somchai-san, gave the following report.
The APCD to which Somchai-san belongs was established through collaboration between the Japanese and Thai governments. He is working on a variety of issues related to disabilities in the Asia-Pacific region, but this time we had his focus on disability-inclusive disaster prevention.

During the three years from 2020 to 2022, they were in the middle of the coronavirus pandemic, so it needed big effort to develop a program with the participation of ASEAN countries. The program's targets are governments, disability support organizations, and organizations of people with disabilities, and the guiding principles are inclusion, awareness, participation, practice, sustainability, and the development of knowledge and skills. International tools include the Sendai Framework, the Convention on the Rights of Persons with Disabilities, the Incheon Strategy, and the SDGs Strategy.
Somchai-san focused this program on instructor training and introduced his practice.

This time, due to the coronavirus pandemic, online training was included, but in order to have more countries participate in the training, a hybrid training of online and face-to-face methods will continue. It is expected.

In the future, the activities of the participants will be tested to determine how to utilize the human resources who participated in the training. Furthermore, we look forward to continuing and developing efforts in the future.

The second reporter, Kendra Hirata, gave the following report.
Kendra-san gave a report on disaster prevention activities in Iloilo City, Philippines. He introduced the two-term project from 2012 to 2017, and reported on his visit to the area this year in 2023 to understand the progress of the project since then. Furthermore, even after the project ended, it was shown that the project continued to be implemented while making progress. The activities were introduced through many photographs, which vividly demonstrated the participation of people with disabilities from the planning stage to the implementation stage.

Natural disasters in Iloilo City are typhoons, floods, water shortages, fires, storms, and earthquakes. Therefore, the first phase included network building, map making, evacuation drills, accessible facilities, and disaster education, and the second phase included crisis management, emergency medical service staff training, and the drafting of city ordinances. An important guiding principle of this project is that vulnerable people want to be included in the process and can play an active role. In other words, people with disabilities are looking for hands-on participation, not just sitting in a conference room. This inclusion of people with disabilities as a key stakeholder group is an important element.

A total of more than 13,000 people have participated in the project's five-year activities. Six years after this project was completed, he showed us the progress that has been made in the photos. It makes clear that people with disabilities are key contributors to making disaster prevention programs more diverse and inclusive.

Thirdly, Noboru Imamura gave the following report.
Imamura-san, who suffered a cervical spinal cord injury 30 years ago and uses a wheelchair, introduced the activities of DPI-Japan, an organization of people with disabilities.

Imamura-san points out the problems: not being able to go to an evacuation center, not being able to live there even if he can go to an evacuation center, not knowing where it is, not having enough people to accept, and lack of information and supplies. He says that evacuation centers are places where there is a huge barrier that prevents people from reaching them.

His final point is that it is better to "coexist with nature rather than overcome it," and that by moving from a "society that tolerates discrimination to one that is inclusive," "true" "regional development" can be achieved.

Imamura-san's most memorable words were, ``During disasters, everyday problems come to the fore." He felt that if we have an inclusive daily life, we can often overcome disasters.

< Panel discussion >

After listening to the reports from the three speakers, Huyen-san from DP Hanoi in Vietnam and Etsuko Ueno-san from the CBID Committee of the Japan Rehabilitation Association for Persons with Disabilities participated as panelists.

Huyen-san shared her impressions from the report and asked questions to the speakers. What all three speakers had in common was the need to change people's consciousness. Three points were raised as impressive. In other words, (1) disaster prevention activities with the participation of people with disabilities, (2) the importance of human resource development, and (3) the importance of collaboration. The importance of human resource development was demonstrated to the government, NGOs, and organizations of people with disabilities.

Also, she had a question for Somchai-san: “What kind of activities do you expect those who complete the training to do?” Participants from Vietnam were asked how they would use the handbook distributed during the training, and if they would be able to receive assistance with translating it into Vietnamese.

(Answer from Somchai-san)

I would like the handbook to be customized and used to suit local conditions. They also said that they would like to translate it into the languages of each country and make it available for download online as an e-book.

(Comment from Kendra)
(Please give us your opinion on how to create continuity and expansion in human resource development (Ogawa).)
・It is important to provide comprehensive training to local government employees and make them aware of the significance.
・It is important to train not only residents but also people in positions involved in policy making.
・It is necessary to discuss the division of roles and their contents with citizens, councilors, and city officials.
・When implementing the project, eight ordinances were changed to incorporate inclusion. Changing this ordinance was of great significance.

(Comment from Imamura-san)
・The headquarters was set up by disabled people, not for them.
・People with disabilities tend to be assumed to be on the receiving end of support, but they can be involved in community development.
・During a disaster, it may be difficult for non-disabled people to see or hear, and it may be difficult to find your way to a destination such as an evacuation center. These conditions can be said to be the same as those with visual impairment, hearing impairment, and intellectual disability.
・If we build community that take into account the characteristics of each type of disability, we will be able to create community that is resilient to disasters and a society that is comfortable for all people to live in.

Then, the commentator, Ueno-san said the following.
・Practices for an inclusive society are carried out in the community, and individual responses to disaster prevention are carried out in the community.
・The key point is what role people with disabilities play in regional development.

She think the basics are for a variety of people to meet and do fun things.
She also introduced a practical example from Kodaira City. ``Concerts created by everyone'' are held in the form of an executive committee. Elderly people are also

participating, regardless of whether they have a disability or not. The meetings are facilitated by people with disabilities.
This is just one example, and can be considered in various situations such as sports and recreation. At Huyen-san's Association in Vietnam, people without disabilities are participating in sports activities of people with disabilities. It would be a good idea to use this format for disaster prevention training as well. Ueno-san suggested that we try something fun at first.

Ueno-san said that it is important to take care of your feet, do simple and fun things, and incorporate them into your daily life.

Finally, professor Yamaka (Director of the Research Center for Regional Cooperation and Disaster Care) gave the following impressions.
"I want to talk about something that I feel strongly about. In this day and age of great disasters, there is nothing that can be postponed. I strongly felt the limits of self-help and the importance of mutual help and collaboration among related parties. Human resource development is something that needs to be addressed as soon as possible. I am the representative of JHAT, but there are currently few candidates. We believe that student education is one of the important activities as a solution. We recognize the need to provide disaster prevention education to young people.
I agree with Ueno-san's opinion. I think it is important to have face-to-face relationships first, and I would like to put that into practice."

(Responsibility for writing: Yoshimichi Ogawa)

第 2 日目「国際セミナー」の終了後 Web アンケート回答とコメント

Web questionnaire answers and comments for the 2nd day “International Seminar”

<Day 2> International Seminar (Webinar) “DiDDR”
Number of registration applicants: 109 people
(Overseas 38 people, Japan 71 people)
Questionnaire results (number of responses: 27)
Was it a meaningful meeting?
Yes. 26, No.　1
Did you gain new knowledge or ideas?
Yes. 26, No.　1
Comment: 17

第二日目　国際セミナー(ウェビナー)
登録申し込み者数　109 名
(海外　38 人、日本　71 人)
アンケート結果(回答数 27)
意義あるミーティングだったか
Yes. 26 人、No. 1 人
新たな知識やアイデアを得たか
Yes. 26 人、No. 1 人
コメント回答　17 人
～　～　～

<< Participant’s Comments and Ogawa’s responses >>

We received responses from the 27 people who attended the meeting, and the comments they provided are shown below. The "response" is a comment from Ogawa, the moderator.

“Let’s create the platform to discuss more on DIRR. Thank you so much for the opportunity.”
(reply)
I agree. We need a platform where we can have further discussions.

“Thank you so much for sharing the initiatives of Iloilo City. We will continue what have we started since the CBARAD Project. Persons with disability must be ready and resilient during disaster.”
(reply)
I believe that the empowerment of people with disabilities will lead to the empowerment of the community.

“It was a meaningful for us. We will try to practice it.”
(reply)
Yes, that's right.

“This does not indicate knowledge of how implement them.”
(reply)
Sorry, you was unsatisfied. Rather than transferring knowledge and skills, our aim was to have the participants reflect on the attitudes and mindsets. I also think it will be a good opportunity to get to know groups and individuals.

“Not only disaster drills, I learned it's important to community relationships. And when a disaster occur, we may see nothing or can't hear anything even our bodies are healthy. I think it's real. This seminar is really meaningful for me. Thank you so much.”
(reply)
Thank you for recognizing the purpose of the seminar.

“It would be better if there are English subtitles.”
(reply)
It seems that the subtitle function was not displayed correctly this time, and some people were rather stressed. I would like to consider how to deal with this.

“I am impressed that Iloilo City (Philippines) has 8 ordinances of DiDRR. I would like to know what they are.”
(reply)
I was also very inspired by the organization and activity process of the "Disability and Disaster Prevention" project in Iloilo City. There is also a report in Japanese on JICA's website, but if you would like to know more, please contact Kendra and he will be able to tell you.

“Please keep in touch I hope to meet everyone in person and thanks you for your presentation it's very useful which I could learn about it.”
(reply)
I would also like to continue to keep in touch with the presenters and the participants. I would like all participants to take this seminar as an opportunity to create a human network. Each group has a website, so I think it's easy to contact them.

<The above comments are in English. The following is an English translation of the Japanese comment.>

“I reaffirmed that an inclusive society in daily life leads not only to disaster prevention but also to the creation of a safe and secure community. Thank you very much.”
(reply)
The common word in all the speakers' reports was "inclusive society." We recognize that promoting disaster prevention means creating an inclusive society.

“I would like to see a hybrid event next time. I thought it would be a good idea to meet face-to-face and talk while exchanging business cards. Thank you very much for the two days.”
(reply)
You are right. It is important to be able to have honest discussions face-to-face. Although zoom has its advantages, I also felt that it was difficult to manage. It would be great if it could be held in a hybrid format.

“I would have liked to know more specific details about the report on initiatives in Thailand.”
(reply)
There were no specific initiatives in Thailand included in the theme. There were several participants from Thailand, so I think it would be great to be able to connect with them. Please contact us if you need it.

“It was a very interesting seminar. I was able to hear the practices of various countries, and also learned that it is important to make disability-inclusive efforts on a daily basis for disaster prevention. Thank you very much!”
(reply)
I agree with you.

“In the event of a disaster, it would be desirable for people with disabilities to be able to evacuate to shelters in the same way as non-disabled people in the community. As mentioned by the panelists, there is a problem that relief supplies such as food are difficult to reach immediately when people are at home. With the aim of resolving this problem, I felt that there was a need for an educational initiative to teach people with disabilities and families to prepare a stockpile for disaster prevention. In addition, although it is costly to prepare disaster stockpiles at home in case of a disaster, there will be a system in the future that allows households with low incomes to receive financial support from the government. I thought it would be good to think about it.”
(reply)
Thank you for your detailed suggestions. I believe that by implementing each of these suggestions one by one, we will be able to improve our disaster prevention measures. I would like to use it as a reference.

“When it comes to disaster prevention, I was reminded once again of the importance of connecting with people on a daily basis.
I learned that self-help and mutual help are at the citizen level, and that working on them in a variety of ways can help people connect. Although there are many challenges to overcome, it is important to continue our activities. Thank you very much.
The two-hour seminar with an interpreter was quite difficult.”
(reply)
As you said, it was definitely more than two hours (actually one hour, with an interpreter included). I was a little too greedy. In the future, I would like to hold seminars with a structure that takes more time into consideration. Thank you.

“I hope that you will continue to hold such meaningful seminars in the future. Thank you very much. The sign language and English interpreters were also wonderful. Please extend my thanks to all the staff members for their hard work.”
(reply)
Thank you for your very encouraging comments. Thank you for your continued support.

“Thank you very much for your very meaningful project. The idea of starting with something simple and fun resonated with me. We would like to thank the staff and everyone involved in preparing and organizing the event.”
(reply)

We didn't have time to touch on Ueno-san's "fun things" in detail, but if you want to have some information about it, please contact us.

“We are working with local organizations for the hearing impaired to create barrier-free facilities during disasters. I learned a lot from this seminar. I once again thought that it is important for persons with disabilities from the community not only to attend the conference, but also to get involved in the planning and put it into practice.”
(reply)
Barrier-free access during disasters is an important initiative. I believe that if future results are shared with other regions, disaster prevention measures will be widely improved. Thank you for your support.

“You suggested the important role of the university.
I hope that disaster prevention education will become more widespread and implemented at universities.”
(reply)
Thank you for your encouragement.

“I heard a variety of reports and received many suggestions. Thank you. We felt that there was still more we could do.”
(reply)
Thank you for your continued support.

～　以下、日本語です　～

<< 参加者のコメントとそれに対するコメントです >>

「DIRR についてさらに論議するためにプラットフォームをつくりましょう。機会をいただきまして誠にありがとうございます。」
(返答)
さらに議論を重ねられるプラットフォームは必要ですね。ありがとうございます。

「イロイロ市の取り組みを共有していただき、本当にありがとうございます。CBARAD プロジェクトからスタートしてきたことを継続していきます。 障害者は災害時に備え、回復する力を備えていなければなりません。」
(返答)

障害者のエンパワメントが、地域のエンパワメントにつながると思っています

「セミナーは私たちにとって意義のあることでした。 実践していきたいと思います。」
(返答)
はい、同感です。

「いかに実践するか、その方法に関する知識は得られませんでした。」
(返答)
すみません、少し物足りなかったのですね。私たちの狙いは、知識やスキルの移植というよりも、専門職の姿勢やマインドについて、それらを振り返っていただくことにもありました。今回のセミナーが、団体や個人と知り合う機会にもなるとよいと思っています。

「防災訓練だけでなく、地域のつながりも大切だと学びました。 そして、災害が起こると、私たちのからだには問題がなくても、何も見えなかったり、何も聞こえなかったりすることがあります。 それは本当だと思います。 このセミナーは私にとって本当に有意義でした。たいへんありがとうございました。」
(返答)
セミナーの意図を認めていただき、ありがとうございます。

「英語の字幕があればもっと良いと思います。」
(返答)
今回の字幕機能はあまり正しく表示していなかったようで、むしろストレスになったという方もいました。対応について検討したいと思います。

「イロイロ市（フィリピン）では 8 つの DiDRR 条例が制定されていることに感銘を受けました。 それらが何なのか知りたいです。」
(返答)
私も、イロイロ市での「障害と防災」プロジェクトの組織化、活動プロセスにとても刺激を受けました。JICA の HP にも日本語での報告もありますが、さらに詳しく知りたい場合は、ケンドラさんに連絡すると教えてもらえることと思います。

「引き続きつながりをもちたいと思います。皆さんに直接お会いしたいと思っています。プレゼンテーションをありがとうございました。それらについて学ぶことができ、非常に役に立ちました。」
(返答)
私も、プレゼンターの皆様と引き続き、コンタクトしていきたいと思っています。ご参加の

皆さまも今回のセミナーを機会にヒューマンネットワークを作っていただきたいと思います。各団体は HP ももっていますので、コンタクトしやすいと思います。

－以上は、英語での回答コメントでした。以下は日本語での回答コメントです。－

「日常生活におけるインクルーシブな社会が防災に限らず、安心.安全な地域作りに繋がることを再認識しました。ありがとうございました。」
(返答)
登壇者の皆さんの報告に共通するワードは、「インクルーシブ社会」でした。防災を進めることは、すなわち、インクルーシブ社会の創造だと認識しております。

「次回以降はハイブリッド開催してほしいです。対面で会って、名刺交換しながら少しお話しできるとよいと思いました。2 日間、ありがとうございました。」
(返答)
おっしゃる通りですね。フェースツーフェースで本音の話し合いができることが大切ですね。Zoom のメリットもありますが、一方で、運営のむずかしさも感じました。ハイブリッドでの開催もできるとよいですね。

「タイでの取り組みにかんする報告では、もう少し具体的な内容が知りたかった。」
(返答)
タイでの具体的な取り組みは、テーマにありませんでした。タイからの参加者も数名いらっしゃいましたので、そうした方々とつながりができるとよいと思います。必要でしたら、ご連絡ください。

「大変興味深いセミナーでした。様々な国の実践を聞くことができましたし、また防災については日常的に障害インクルーシブな取り組みをしておくことが重要だと学びました。ありがとうございました！」
(返答)
いただいたご意見に同意致します。

「災害時には障害者も地域の一般の人達と同じ様に避難所に避難出来ることが望ましいが、障害者の障害の状態によっては、避難所ではなく自宅に残る決断をする場合も少なくない。パネリストの発言にあったが、自宅にいる場合、食料品等の支援物資が即座に届きにくいという問題がある。その問題を少しでも解消することを目的として、障害者世帯に防災用の備蓄を備えることを教える様な教育的取り組みが必要ではないかと感じた。また、災害時のために家庭内で災害備蓄品を準備しておくことは、費用もかかるが、収入の少ない障害者世帯

に行政からの金銭的に支援が得られるような制度等も今後は考えられると良いと思った。」
(返答)
具体的な提案をしてくださり、ありがとうございます。こうしたご提案を一つ一つ実践していくことで、防災対策の充実を図ることができると思います。参考にしたいと思います。

「防災について、日ごろからの人繋がりがとても大事ということをあらためて思いました。自助、共助は市民レベルのことで、様々工夫しながら取り組むことが人繋がりになることもわかりました。課題はたくさんありますが継続した活動を続けていくことが大事。ありがとうございました。
通訳をつけてのセミナーは、２時間ではなかなか厳しいでした。」
(返答)
おっしゃる通り、たしかに 2 時間(通訳が入りますので、実質 1 時間)では収まらない内容でした。少し欲張りすぎましたね。今後は、もう少し時間を考慮した構成でセミナーを実施したいと思います。ありがとうございます。

「今後もこのような有意義なセミナーを開催していただけると嬉しいです．ありがとうございました．手話通訳，英語通訳も素晴らしかったです．ご尽力いただいたスタッフの皆様によろしくお伝えください.」
(返答)
とても励みになるコメントをいただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

「大変有意義な企画をありがとうございました。シンプルで楽しいことから始めてみるには、共感しました。準備、運営をされたスタッフ、関係者の皆様に感謝いたします。」
(返答)
上野さんの「楽しいこと」は詳しく触れていただく時間がありませんでしたが、いくつかの報告はまとめられていると思いますので、お問合せください。サイトなど紹介できると思います。

「地域の聴覚障害者団体と災害時のバリアフリー等に取り組んでいます。今回のセミナーは大変勉強になりました。地域から障害当時者が会議に出席するだけではなく、企画することから関わって実践していくことが重要だと、あらためて思いました。」
(返答)
災害時のバリアフリー、大切な取り組みです。これからの成果も他の地域と共有していただけると、広く防災対策が充実していくものと思います。よろしくお願い致します。

「大学としての重要な役割を示唆いただいた。
大学での防災教育が広まり、実施されることを期待します。」
(返答)
激励、ありがとうございます。

「多様なお話を伺えて多くの示唆をいただきました。ありがとうございます。自分達にできることはまだまだあると感じました。」
(返答)
これからもどうぞよろしくお願い致します。

以上

参考サイト　一覧（List of reference sites）

<協力団体 Cooperating organizations>

JICA(Japan International Cooperation Agency)
国際協力機構
https://www.jica.go.jp/english/index.html　(English site)
disaster.pdf (jica.go.jp) (Japanese site)
jica_disaster_prevention.pdf (Japanese)

JICA 社会保障・障害と開発分野プラットフォーム
https://www.jica.go.jp/activities/issues/social_sec/platform.html (Japanese)

Asia-Pacific Development Center on Disability
アジア太平洋障害者センター
https://www.apcdfoundation.org/　(English)

JSRPD(Japanese Society for Rehabilitation of Persons with Disabilities)
日本障害者リハビリテーション協会
https://www.jsrpd.jp/en/ (English)

Duskin AINOWA Foundation
ダスキン愛の輪基金
https://www.youtube.com/watch?v=9LS6ET-mfcs　movie site(English subtitles)
ダスキン障害者リーダーシッププログラム
Duskin Leadership Program of People with Disabilities
https://www.normanet.ne.jp/~duskin/english/index.html　(English)

DPI-Japan
障害者インターナショナル日本会議
https://www.dpi-japan.org/en/ (English)

CityNet － Plus Arts Center for Creative Partnerships)
シティネット-プラス・アーツ
http://plus-arts.net/info/ (Japanese)

DP Hanoi
ハノイ障害者協会
http://dphanoi.org.vn/vi-vn/ (Vietnamese)

<協賛団体 Sponsoring organization>

International Soroptimist of Atsugi
国際ソロプチミスト厚木
https://atsugi-soroptimist.org/ (Japanese)

SOMPO-Japan
損保ジャパン　(神奈川支店厚木支社)
https://www.sompo-japan.co.jp/　(Japanese)

<主催団体 Management organization>

神奈川工科大学(KAIT)
Kanagawa Institute of Technology
https://www.kait.jp/　(Japanese)
https://en.kait.jp/index.html (English)

KAIT 地域連携災害ケア研究センター
Research Center for Regional Cooperation and Disaster Care, KAIT
https://kait-ccd.jp/ (Japanese)

KAIT 地域連携・貢献センター
Center for Regional Cooperation and Contribution, KAIT
https://cp.kanagawa-it.ac.jp/ccc/ (Japanese)

<「障害」「防災」「国際協力」に関わる参考サイト reference sites concerning the Seminar>

障害者の権利に関する条約（略称：障害者権利条約）

Convention on the Rights of Persons with Disabilities

https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html （Japanese）

https://www.mofa.go.jp/fp/hr_ha/page23e_000553.html （English）

仙台枠組み

第 3 回国連防災世界会議

Sendai Framework

Third UN World Conference on Disaster Risk Reduction

https://www.bousai.go.jp/kokusai/kaigi03/index.html （Japanese）

https://www.preventionweb.net/news/historic-framework-agreement-sets-goals-reduce-loss-life-livelihood-third-world-conference （English）

仙台枠組み 2015-2030

https://www.bousai.go.jp/kokusai/kaigi03/pdf/10sendai_kariyaku.pdf （Japanese）

https://www.bousai.go.jp/kokusai/kaigi03/pdf/10sendai_e.pdf （English）

インチョン戦略

Incheon Strategy

https://www.preventionweb.net/news/historic-framework-agreement-sets-goals-reduce-loss-life-livelihood-third-world-conference （Japanese）

https://www.maketherightreal.net/incheon-strategy （English）

アジア防災センター

The Asian Disaster Reduction Center (ADRC)

https://www.adrc.asia/ （English）

https://www.adrc.asia/top_j.php （Japanese）

国際セミナー概要報告: 2023 年 10 月 5 日

International seminar summary report：October 5, 2023

連絡先

神奈川工科大学
地域連携・貢献センター　小川　喜道
〒243-0018　神奈川県厚木市下荻野 1030
小川喜道
TEL. 046-291-3153
FAX. 046-271-8331
Mail: ogawa@rm.kanagawa-it.ac.jp
chiiki-koken@ccml.kanagawa-it.ac.jp

Contact:
Yoshimichi Ogawa
The Center for Regional Cooperation and Contribution
Kanagawa Institute of Technology
1030 Shimo-ogino, Atsugi, Kanagawa 243-0018 Japan
TEL. 81-046-291-3153
FAX. 81-046-271-8331
Mail: ogawa@rm.kanagawa-it.ac.jp
chiiki-koken@ccml.kanagawa-it.ac.jp